

人権擁護委員による県外視察研修 (福井県敦賀市)

可茂協議会では、令和5年11月20日、県外視察研修として、福井県敦賀市を訪れました。訪問先の「人道の港 敦賀ムゼウム (資料館)」は、1920年代にシベリアで家族を失ったポーランド孤児が上陸し、また、1940年代には加茂郡八百津町と関わりの深い杉原千畝氏が発給した「命のビザ」を携えたユダヤ人が上陸した港の一角に建っています。ボランティアガイドの方に資料の説明と当時の敦賀市民の心温かい交流の様子を聞かせてもらい、当時の人道への思いを巡らせました。

ガイドによる当時の状況説明



ポーランド孤児の名簿



「命のバトン」をつないだ人々の写真